

令和6年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(統計情報総合研究事業))
研究報告書

International Classification of Health Interventions (ICHI) の

我が国における活用・普及のための研究

研究代表者 川瀬 弘一 聖マリアンナ医科大学理事

研究要旨:

WHO 国際分類ファミリー(WHO-FIC)は、その中心分類として疾病及び関連保健問題の国際統計分類(ICD)、国際生活機能分類(ICF)、保健・医療関連行為に関する国際分類(International Classification of Health Interventions: ICHI)の3つを設けており、共通のファウンデーションから用語を引き出すことで作成、各分類が密接に関連している。本研究の目的は、ICHI の開発ならびに我が国での継続的な教育、普及を行うスキームを確立することである。2024年度もWHO-FIC ネットワーク中間会議、年次会議に対面及びWEB で参加し、ICHI の最新情報を収集するとともに、我が国からの意見を提案した。また ICHI の普及については第 171 回北海道診療情報管理研究会学術集会において「医療行為の国際分類(ICHI)について」の講演を行い、ICHI 研修会ではこれまで開催したことのない地域、千葉市、熊本市、仙台市で開催した。ICHI の Extension codes の ICD との共通化が急ピッチで進められていたが、2025 年 1 月までは ICHI online で検索しても「No Code Assigned(コードが割り当てられていない)」と表示され、具体的なコードは振られていなかった。しかし今回の研修期間中の 2025 年 2 月 21 日に ICHI online 上に一部の Extension codes が掲載され、翌日の ICHI 研修会(熊本)では、参加者にその検索法も含めて指導することができた。2025 年 3 月 1 日開催の ICHI 研修会(仙台)には研修会資料の修正を行い、参加者に Extension codes のコードの検索法を修正したものに差し替えることが可能となった。このためなお、これら講演等を通じて、国内でのさらなる活用には ICHI 検索ブラウザの日本語訳は必須であると実感させられた。

研究分担者

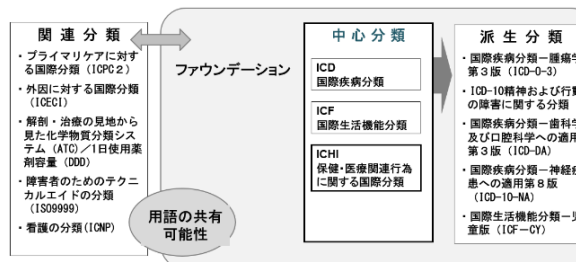
田中裕次郎・埼玉医科大学 小児外科 教授
岩中 督・東京大学医学部附属病院 名誉教授
波多野賢二・国立精神・神経医療研究センター 病院データマネジメント室 室長
高橋長裕・公益財団法人ちば県民保健予防財団総合健診センター 顧問
瀬尾善宣・社会医療法人医仁会中村記念病院 副院長
阿部幸喜・千葉大学医学部附属病院 次世代医療構想センター 特任講師
小川俊夫・摂南大学 農学部食品栄養学科教授

荒井康夫・北里大学 未来工学部データサイエンス学科 講師

A. 研究目的

本研究の目的は、保健・医療関連行為に関する国際分類(International Classification of Health Interventions: ICHI)の我が国での活用方法を提案し、それらを活用して継続的な教育、普及を行うスキームを確立することである。WHO 国際分類ファミリー(WHO-FIC)は、その中心分類として疾病及び関連保健問題の国際統計分類(ICD)と国際生活機能分類(ICF)、ICHI の3つを設け、共通のファウンデーションから用語を引き出し作成、各分類が

図1. WHO 国際統計分類ファミリー(WHO-FIC) 中心分類である ICD、ICF、ICHI や派生分類は WHO-FIC のファウンデーションという共通の枠組みから用語が引き出されている



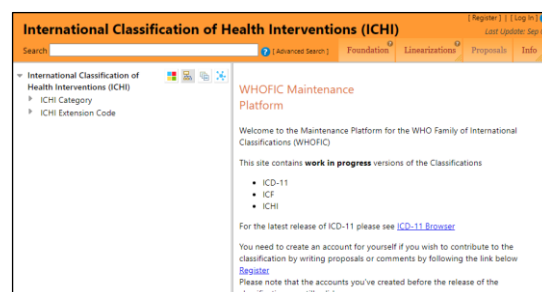
研究代表者および研究分担者は、これまで厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業)で、WHO-FIC の年次会議、中間会議、ICHI Task Force 会議(ICHI 会議)に出席し、海外での活用事例など最新の情報を収集するとともに、我が国の知見を踏まえた意見提出を行ってきた。

ICHI は単純な分類コードではなく、ICD や ICF とともに利用可能であり、さらに臨床現場

(<https://icd.who.int/dev11/l-ichi/en>) が WHO から提供されている(図2)。

WHO の公用語は、英語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、アラビア語の 6 か国語であり、WHO から発出される ICHI を含む国際統計分類においても、公用語以外の翻訳は各国に任されている。これまで「ICHI Reference Guide」や ICHI Stem code の 3 つの軸 (Target、Action、Means) の仮訳を行ってきたが、現在も毎年 Stem Code の修正、追加が行われており、ウェブサイトの日本語訳は進んでいない。ICHI の利用者の多くは診療情報管理士などの医療事務職であり、英語表記の ICHI 検索ブラウザを、Microsoft Edge や Google Chrome の翻訳機能を用いた利用法も含めて ICHI 研修会等で指導している。国内でのさらなる活用には ICHI 検索ブラウザの日本語訳は必須である。

(<https://icd.who.int/dev11/l-ichi/en>)



B. 研究方法

1) ICHI の動向

ICHI の今年度の動向について WHO-FIC ネットワーク年次会議・中間会議での活動、および今後について記述する。

2) ICHI の我が国における活用と普及活動

我が国での ICHI の活用を示し、さらに ICHI の継続的な教育、普及を行うスキームを確立する。

C. 研究結果

1) ICHI の動向

2024 年 5 月 13 日～17 日にメキシコシティで開催された WHO-FIC ネットワーク中間会議に、研究分担者である阿部幸喜氏は FDC および Morbidity Reference Group (MbRG) のメンバーとして対面で出席、本研究代表者である川瀬 弘一は Family Development Committee (国際分類ファミリー拡張委員会、FDC) のボードメンバーとして、そして瀬尾善宣氏は FDC のオブザーバー及び Education and Implementation Committee (教育普及委員会、EIC) のメンバーとして WEB で出席した。

ICHI は近年中の WHA での承認に向けて、様々な改良に努めてきている。ICHI 検索ブラウザの修正・構築の詳細が報告されたが、ICHI の開発段階は過ぎており、MbRG のような組織の立ち上げが必要ではないかとの意見もあった。また ICHI と ICD、ICF との併用、併記の利用例を集めて共有すべきという内容も議論された。また阿部幸喜氏より、日本の外科手術コードが ICHI に非常に近く、マッピングさせると 95%以上変換可能で、完全一致させれば国際間での診療行為の比較が可能であると発信した。

2024 年 WHO-FIC ネットワーク年次会議は、当初ルワンダ・キガリで 10 月 14 日～18 日の開催予定であったが、直前のマールブルグ病感染拡大によってキガリ開催は延期となり、急遽ジュネーブでのハイブリッド開催へ変更となり、本研究代表者及び研究分担者は WEB での参加となった。FDC 会議では ICF と ICHI についての調整と調和を取り決める作業が引き続き議論された。また FDC と Informatics and Terminology Committee (情報科学用語委員会、ITC) の合同セッションでは、ICHI については FDC で細かく制度を作成していく段階は済んでおり、今後はメンテナンスとして HIRG というレファレンスグループを立ち上げていくという報告があった。その後 HIRG の設置に伴い、WHO 事務局よりメンバーの推薦依頼があり、Japan CC からは本研究分担研究者である阿部幸喜氏を推薦し承諾していただいた。

またコンテンツの調整と調和として、ICD、ICF、ICHI 間の連携のユースケース(事例)を開発していくことも確認された。

2) ICHI の我が国における活用と普及活動

多くの医療関係者に ICHI に対する理解を深めてもらう目的で、2021 年度から「ICHI テキスト」を作成している。この ICHI テキストは、ICHI の基本概念およびその構造、そして 136 例の事例紹介の形式をとっており、執筆者は研究代表者、研究分担者だけでなく、2029 年に WHO-FIC で行われた ICHI フェース2テスト(ICHI-FiT)に参加していただいた診療情報管理士 38 名にも分担していただいている。現在 ICD と ICHI の Extension code の共通化が急ピッチで進められている。このため 2025 年 2 月中旬までは ICHI online で Extension code を検索しても「No Code

Assigned(コードが割り当てられていない)」と表示され、具体的なコードはまだ振られていなかったが、2 月中旬に突然、Extension codeの一部にコードが振られるようになった。今後136 例の事例紹介例を、新たな Extension code を付記した内容に修正し、さらに充実させたものを作成できるよう準備、2025 年度には改訂版「ICHI テキスト 2025」を完成させる予定である。

我が国における ICHI の普及のため、今年度は、6 月 8 日に札幌で開催された第 171 回北海道診療情報管理研究会学術集会において「医療行為の国際分類(ICHI)について」の講演をおこなった。ハイブリッド開催で、現地参加 43 名、WEB 参加 40 名の合計 83 名の出席者に、ICHI の現状やウェブサイトを用いて(この時はスマホを用いて)の ICHI 検索法や、翻訳機能を用いた利用法も含めて指導した。

また ICHI 研修会はより多くの理解者を増やす目的で、これまで開催したことのない地域、今回は千葉市、熊本市、仙台市の3ヵ所で開催した。研修内容はこれまでの厚生労働科学研究費補助金で作成した「ICHI Reference Guide」や「ICHI テキスト」を教材として用いて、「WHO 国際統計分類ファミリーについて」の講演と、「ICHI コーディング演習」という実習形式の研修内容とした(図3)。

図3. ICHI 講演ならびに研修会
第 171 回北海道診療情報管理研究会 学術集会

会場	日時	場所	参加者
札幌市	6月8日(土) 15:00~18:00	株式会社モロオ 5階大会議室	ハイブリッド開催 (現地参加43名、 WEB参加40名)

ICHI 研修会

会場	日時	場所	参加者
千葉市	2月1日(土) 15:00~19:00	TKP千葉駅東口 ビジネスセンター	現地開催 (参加予定23名)
熊本市	2月22日(土) 15:00~19:00	TKP熊本カンファ レンスセンター	現地開催 (参加予定13名)
仙台市	3月1日(土) 15:00~19:00	TKPガーデンシ ティPREMIUM仙 台西口	現地開催 (参加予定13名)

ICHI 研修会には合計 49 名(千葉会場 23 名、熊本会場 13 名、仙台会場 13 名)が参加し、「WHO 国際統計分類ファミリーについて」では ICHI コードの概要や WHO-FIC 中心分類内での ICD、ICF と ICHI の連携などについての講演を行い、その後に ICHI コーディング演習として「ICHI のステムコードとエクステンションコード」、「ICHI online を用いての検索法」、「ICHI コーディング演習」の研修を行った。今回の内容は ICHI をほとんど理解できていない方でもパソコンやタブレット、スマホでの ICHI 検索ができるよう、実習指導者として ICHI の内容を熟知している診療情報管理士3名が付き添い、参加者全員が内容を理解し、ICHI 検索ができるよう心掛けた。また ICHI 検索ブラウザの日本語訳はできていないため、WEB サイトの翻訳機能を用いての検索方法も指導した。

研修終了時には ICHI コーディングの正解例や具体的な検索法を記載した回答例も配布した。さらにアンケート調査を施行し、ICHI 研修会に参加した 35 名(回収率 71.4%)から回答をいただいた。年齢は 20~29 歳:3 名、30~39 歳:5 名、40~49 歳:10 名、50~59 歳:13 名、60~69 歳:4 名であった。勤務先は病院:30 名、大学・専門学校:3 名、医療関連企業:1 名、教育関連企業:1 名で、業務

内容は、診療情報管理:22名、医事、請求:8名、経理、経営戦略:3名、大学教員:2名であった。

「ICHIについて、これまで聞いたことがありますか？」の問いに対して「今回の研修会で初めて知った」9名(25.7%)、「WHO-FICの中心分類であることは知っている」24名(68.6%)、「よく知っている」1名(2.9%)、「ICHI フィールドテストに参加し、よく知っている」1名(2.9%)、「ICHI フィールドテストにも参加し、よく知っている」1名(2.9%)と回答があった(図4)。

「ICHI Online は検索しやすいか？」の問いに対して、「検索しやすい」25名(71.4%)、「検索しにくい」6名(17.1%)、「コツが必要」1名(2.9%)、「慣れが必要」2名(5.7%)、「英語力が問題点」1名(2.9%)と回答があった。

「和訳はどの程度必要か？(5段階評価)」の問いに対して、「80~100%必要」20名(57.1%)、「60~80%必要」7名(20.0%)、「40~60%必要」7名(20.0%)、「20~40%必要」1名(2.9%)、「0~20%必要」0名(0%)と回答があった。

「ICHI TEXT は分かりやすいか？」の問いに対して、「分かりやすい」32名(91.4%)、「少し分かりにくい」2名(5.7%)、「分かりにくい」1名(2.9%)と回答があり、「ICHI Reference Guide は分かりやすいか？」の問いに対して、「分かりやすい」29名(82.9%)、「少し分かりにくい」5名(14.3%)、「分かりにくい」1名(2.9%)と回答があった。

「今回の研修の難易度は？」の問いに対して、「易しかった」2名(5.7%)、「ちょうど良かった」21名(60.0%)、「難しかった」12名(34.3%)と回答があり、「今回の研修の理解度は？」の問いに対して、「概ね理解できた」26

名(74.3%)、「理解できないところがあった」9名(2.5%)と回答があった。

図4. ICHI 研修終了後のアンケート調査結果

質問内容	ICHI研修会(千葉・熊本・仙台) (回答者:35名)
これまでにICHIを きいたことがあるか？	初めて知った(9名:25.7%) WHO-FICの中心分類であることは知っている(24名:68.6%) よく知っている(1名:2.9%) ICHI フィールドテストに参加し、よく知っている(1名:2.9%)
これまでにICHIの 研修の経験は？	ある(18名:51.4%) ない(17名:48.6%)
ICHIの研修を受けた ことが「ある」と回答さ れた方は、その研修会 の種別を (複数回答あり)	日本診療情報管理学会の研修、 教育講演(18名:51.4%) その他の団体等による研修(2名: 5.7%)
ICHI 検索に使用した 端末は？ (複数回答あり)	パソコン(28名:80.0%) タブレット(7名:20.0%) スマホ(19名:54.3%)
ICHI Online は検索 しやすいか？	検索しやすい(25名:71.4%) 検索しにくい(6名:17.1%) コツが必要(1名:2.9%) 慣れが必要(2名:5.7%) 英語力が問題点(1名:2.9%)
和訳はどの程度必要 か？ (5段階評価)	80~100%必要(20名:57.1%) 60~80%必要(7名:20.0%) 40~60%必要(7名:20.0%) 20~40%必要(1名:2.9%) 0~20%必要(0名:0%)
ICHI TEXT は分かり やすいか？	分かりやすい(32名:91.4%) 少し分かりにくい(2名:5.7%) 分かりにくい(1名:2.9%)
ICHI Reference Guideは分かりやすい か？	分かりやすい(29名:82.9%) 少し分かりにくい(5名:14.3%) 分かりにくい(1名:2.9%)
今回の研修の難易度 は？	易しかった(2名:5.7%)、 ちょうど良かった(21名:60.0%) 難しかった(12名:34.3%)
今回の研修の理解度 は？	概ね理解できた(26名:74.3%) 理解できないところがあった(9名: 2.5%)

D. 考察

ICHI 開発が2007年にスタートして、今年で18年目を迎える。2019年7月から2020年2月までに世界各国で行われた ICHI フィールドテストには、日本から140名が評価者として参加した。Public Health interventions(公衆衛生領域の保健・医療関連行為)については、標準的な言葉、用語が馴染みがなく、どの国においても正解率が低率であったため、この

数年、WHO-FIC では公衆衛生領域の共通言語の開発、改善に積極的に取り組んだ結果、大部分の項目が追加・修正されている。

ICHI コードは Stem code と Extension codes の組み合わせで構成されており、Stem code は 3 つの軸で表現されている。

Target (3 桁コード) は Action が実行される実態で、2025 年 1 月に ICHI online で最新の内容を確認したところ、Target for body systems and functions (身体の部位や身体機能) が 443 コード、Target for activities and participation domains (活動や参加) が 122 コード、Target for the environment (環境) が 107 コード、Health-related Behaviours target (健康関連の行動) が 35 コードで、Other specified, unspecified (その他、部位不明) の 2 コードを入れて全 709 コードからなっている (図 5)。

図 5. ICHI Target

	Target 大分類	コード数
1.	Target for body systems and functions ・Body Systems 身体の部位 ・Body Functions 身体機能、他	443
2.	Target for activities and participation domains 活動や参加 …「学習と適用」「作業」「コミュニケーション」「セルフケア」等	122
3.	Target for the environment 環境	107
4.	Health-related Behaviours target 健康関連の行動	35
	Other specified, unspecified その他、部位不明	2
	合計	709

Action (2 桁コード) は Target に対して何を行うかを示したもので、Diagnostic (診断) が 12 コード、Therapeutic (治療) が 78 コード、Managing (管理) が 12 コード、Preventing (予防) が 21 コードで、Other specified, unspecified (その他、部位不明) 2 コードを入れて全 125 コードからなっている (図 6)。

図 6. ICHI Action

	Action 大分類	コード数
1.	Diagnostic 診断 …「検査」「画像」「生検」等	12
2.	Therapeutic 治療 …「麻酔」「切除」「切開」「挿入」「再建」「トレーニング」「教育」「カウンセリング」等	78
3.	Managing 管理 …「支援」「計画」等	12
4.	Preventing 予防 …「公衆衛生監視」「感染対策」「環境改善」等	21
	Other specified, unspecified その他、部位不明	2
	合計	125

Means (2 桁コード) は Action が実行されるプロセスと方法を示したもので、Approach (到達方法) が 13 コード、Technique (技術) が 16 コード、Method (方法) が 3 コード、Sample (サンプル) が 8 コードで、Other specified, unspecified (その他、部位不明) の 2 コードを入れて全 42 コードからなっている (図 7)。

図 7. ICHI Means

	Action 大分類	コード数
1.	Approach 到達方法 …「オープン」「経皮的」「経孔的」「鏡視下手術」等	13
2.	Technique 技術 …「放射線(単純)」「放射線(造影)」「CT」「MRI」「超音波」等	16
3.	Method 方法 …「制定」「施行」「経済的手段」	3
4.	Sample 資料 …「血液」「尿」「髄液」等	8
	Other specified, unspecified その他、部位不明	2
	合計	42

この 3 つの軸から Health interventions の ICHI Stem code が作成され、Target の大分類別に分けると「Interventions on body systems or functions (身体の部位あるいは身体機能の介入)」が 5,369 件、「Interventions on Activities and participation domains (活動と参加の介入)」が 1,004 件、「Environment (環境の介入)」が 2,528 件、「Health-related Behaviours (健康関連の行動への介入)」が 707 件で、合わせて 9,608 件になっている (図 8)。

図 8. Target 大分類別の ICHI Stem code

	Target 大分類別	ICHI Stem code 数
1.	Interventions on body systems or functions	5,369
2.	Interventions on activities and participation domains	1,004
3.	Interventions on the environment	2,528
4.	Interventions on health-related behaviours	707
	合 計	9,608

また Extension codes は、Stem code では十分表現できない、あるいは区別できない保健・医療関連行為を精緻化するためにとっても便利なコードで、Extension codes 付記することによって Stem code の詳細と粒度を拡張ことができるが、付記するルールが現在決まっていないため、とても煩雑である。

その内容は 8 つの大分類に分けられ、「Additional descriptive information (付加的な記述、情報)」が 59 コード、「Assistive products (支援製品)」が 138 コード、「Essential pathology tests (診断のためのテスト)」が 119 コード、「Quantifiers (数)」が 27 コード、「Telehealth (テレヘルス (遠隔医療を含む))」が 3 コード、「Therapeutic products (治療用製品)」が 169 コード、「Anatomy and topography (解剖と部位)」が 2,894 コード、「Topology Scale Value (部位スケール値)」が 40 コードの全 3,449 コードからなっている(図 9)。

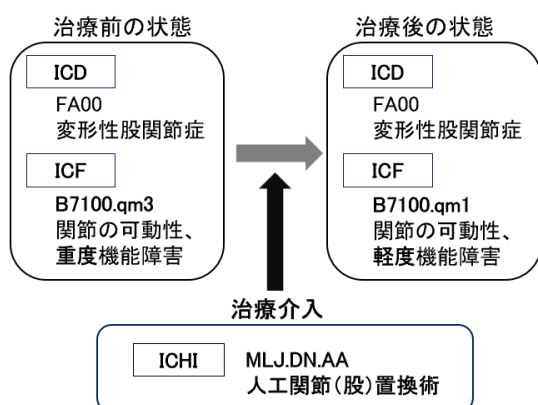
図 9. Extension codes

	Extension codes 大分類	コード数
1.	Additional descriptive information (付加的な記述、情報)	59
2.	Assistive products (支援製品)	138
3.	Essential pathology tests (診断のためのテスト)	119
4.	Quantifiers (数)	27
5.	Telehealth (テレヘルス (遠隔医療を含む))	3
6.	Therapeutic products (治療用製品)	169
7.	Anatomy and topography (解剖と部位)	2,894
8.	Topology Scale Value (部位スケール値)	40
	合 計	3,449

ICHI の Extension codes は WHO-FIC のファウンデーションという共通のストックから引き出すことが 2022 年の WHO-FIC ネットワーク年次会議で確認され、これにより ICD と ICHI の Extension codes の共通化が急ピッチで進められている。しかしながら 2025 年 1 月までは ICHI online で検索しても「No Code Assigned (コードが割り当てられていない)」と表示され、具体的なコードは振られていなかった。しかし 2025 年 2 月 21 日に ICHI online 上に一部の Extension codes が掲載されることに気づき、翌日の ICHI 研修会(熊本)では、参加者にその検索法も含めて指導することができた。研修会のために用いる資料は、あらかじめ印刷していたため間に合わなかったが、会場でのスライドはできる限る修正したものを提示した。3 月 1 日開催の ICHI 研修会(仙台)には資料の修正を行い、参加者に Extension codes のコードの検索法を修正した資料の配布をすることが可能となった。

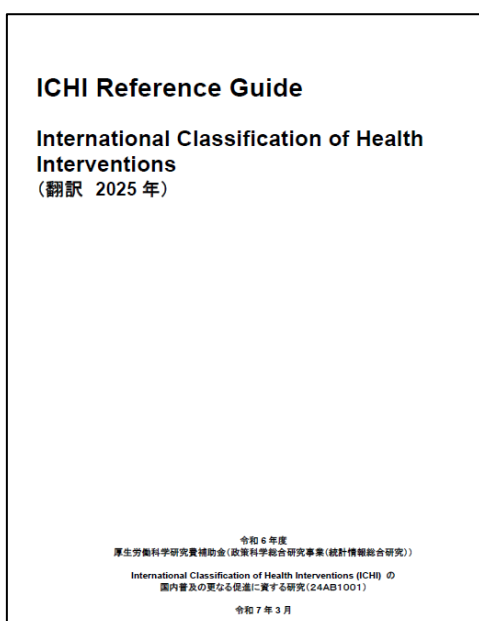
また国際分類により表記のイメージを、研究分担者の阿部幸喜氏が ICHI 研修会での講演「WHO 国際統計分類ファミリーについて」内で、3 つの中心分類の関係を提示している。具体的には変形性股関節症(ICD:FA00)、関節の可動性_重度機能障害(ICF_B7100.qm3)の治療前の状態が、治療介入として人工関節(股)置換術(ICHI_MLJ.DN.AA)を行うことで、治療後の状態が関節の可動性_軽度機能障害(ICF_B7100.qm1)となるとというイメージである(図 10)。3 つの中心分類が患者に対してどのように表現するかを分かり易く示している。

図 10. 国際分類による表記のイメージ図



日本語訳は我が国での活用には必須である。昨年度は「ICHI Reference Guide」の翻訳を行った。今回、一部の Extension codes が ICHI online に掲載されたことをきっかけに、「ICHI Reference Guide(翻訳 2025 年)」を作成した(図 11)。本文の修正はまだ行われていないが、日本語訳に「訳者注」という形で修正されるであろう内容を記載した。これにより 2025 年度以降の ICHI を研修会での資料として配布、使用してく予定である。

図 11. ICHI Reference Guide(翻訳 2025 年)



また今後は、検索ブラウザ ICHI online の日本語訳をすすめていきたい。

E. 結論

2024 年に WHA において ICHI の承認が期待されたが、準備不足とのことで叶わなかった。しかしながら現在 Extension codes の具体的なコードが振られるよう進んでおり、近年中の WHA において ICHI の承認が期待できる。

WHA において ICHI が承認されると、ICD、ICF の中心分類が同じ土俵となり、これまで以上に世界中で利用されるようになると思われます。ICHI の我が国への活用と普及については、今後も多くの方に ICHI を理解していただけるよう「ICHI テキスト」「ICHI Reference Guid」を用いた講習会を継続し、これまでの経験を踏まえて、内容をブラッシュアップしていく予定である。そのために教育・普及の教材の基本となる「ICHI テキスト」の改訂を今回の Extension codes の変更を踏まえて出来るだけ早く修正したいと考えている。今後の最大の課題は、ICHI の日本語訳の作業であり、スピード感を持って対処したい。

F. 健康危険情報

特記事項なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 川瀬弘一: ICHI 開発と今後に向けて. 診療情報管理 36(4): 3-4, 2025
- 2) 瀬尾善宣. ICD-11 と脳神経外科について. 診療情報管理 36(3): 40-48, 2024
- 3) Abe K, Kawase H, Yokogawa N, Yamashita K, Yamashita M, Sasaki T, Yamaoka A, Shiga Y, Maki S, Inage K,

Eguchi Y, Orita S, Ohtori S. Mapping the Japanese orthopedic association national registry (JOANR) to the international classification of health interventions (ICHI), Journal of Orthopaedic Science, 2023.

<https://doi.org/10.1016/j.jos.2023.01.002>

4) 川瀬弘一:我が国における ICHI 活用の可能性. 診療情報管理 35(1):23-32, 2023

5) 松本万夫, 稲垣時子, 河村保孝, 瀬尾善宣, 住友正幸, 海野博資, 川瀬弘一. シンポジウム2:ICD-11 の実際. 日本診療情報管理学会誌. 2022; 34(2): 13-39.

6) 川瀬弘一:保健・医療関連行為に関する国際分類(ICHI)の動向. 医学の歩み 283(8): 803-804, 2022

7) 川瀬弘一:「医療に対する私の思い」診療情報管理士と WHO 国際分類(WHO-FIC), HL7 FHIR. 神奈川県医師会報 884:35-38, 2022.

2. 学会発表

1) 阿部幸喜. 整形外科の ICHI と、joint Use としての ICF への期待. 第 122 回診療情報管理士生涯教育研修会. 東京. 2025 年 3 月.

2) 瀬尾善宣, 中村博彦. 脳神経外科と世界保健機関国際分類ファミリー(WHO-FIC)中心分類. 第 83 回日本脳神経外科学会学術大会. 横浜. 2024. 16~18

3) 瀬尾善宣. ICD-11 と脳神経外科について. 日本診療情報管理学会 第 119 回生涯教育研修会. 東京. 2024.7.

4) 阿部幸喜, 藤田香織, 松本万夫, 遠藤弘良, 鎌倉由香, 住友正幸, 瀬尾善宣, 高橋長裕, 塚本哲, 三木幸一郎, 牧田茂. 教育講演 ICD-10 から ICD-11 への移行に当たっての

問題と教育 “Metastatic”の解釈のアンケート結果. 第 50 回日本診療情報管理学会学術大会. 福岡. 2024

5) 阿部幸喜, 高橋幸恵, 救急医療領域の手技・処置を対象とした国際分類 ICHI への Mapping. 第 50 回日本診療情報管理学会学術大会. 福岡. 2024

6) Abe K, Fujita K, Suenaga H, Matsumoto K, Sumitomo M, Takahashi O, Endo H, Kamakura Y, Seo Y, Miki K, Makita S, Tsukamoto T, Akiyama J. Discrepancy between Japanese understanding and the principles of ICD-11 regarding the interpretation of the adjective ‘metastatic’WHO - FAMILY OF INTERNATIONAL CLASSIFICATIONS NETWORK ANNUAL MEETING ,18 October 2024

7) Abe K, Kawase K, Seo Y, Takahashi Y, Sakamoto Y, Ueno Y, Iida H, Yoshimura K. Mapping emergency medicine procedures and interventions in Japan to the International Classification of Health Interventions classification. WHO - FAMILY OF INTERNATIONAL CLASSIFICATIONS NETWORK ANNUAL MEETING ,18 October 2024

8) 阿部幸喜, 吉村健佑, 飯田英和. 救急医療分野の国内処置介入行為と国際分類 ICHI との mapping について. 第 83 回日本公衆衛生学会. 札幌. 2024

9) Seo Y, Takahashi O, Kawase K, Matsumoto K, Abe K, Nakamura H, Suenaga H. Consideration of anatomical classification axis related to the brain in the WHO-FIC Foundation, WHO Family of

International Classifications Network

Annual Meeting 2023, 2023/10

10) 荒井康夫. Kコードの分類体系の見直しに関する現状第49回日本診療情報管理学会学術大会. 十和田. 2023

11) 川瀬弘一. Kコードの分類体系見直しにおける外保連基幹コード(STEM7)、ICHIコードの検討. 第49回日本診療情報管理学会学術大会. 十和田. 2023

12) 瀬尾善宣. 脳神経外科手術における、Kコード、手術基幹コード(STEM7)、ICHIにおける相違点について. 第49回日本診療情報管理学会学術集会. 十和田. 2023

13) 瀬尾善宣、中村博彦. 脳神経外科手術における、Kコード、手術基幹コード(STEM7)、ICHIにおける相違点. 第26回日本臨床脳神経外科学会. 宇都宮. 2023

14) Abe K, Kawase H, Yokogawa N, Yamashita K, Yamashita M, Sasaki T, Yamaoka A, Shiga Y, Maki S, Inage K, Eguchi Y, Orita S, Oteri S. Mapping the Japanese Orthopaedic Association National Registry (JOANR) to ICHI, WHO Family of International Classifications Network Annual Meeting 2022, 2022/10

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

特記事項なし

2. 実用新案登録

特記事項なし

3. その他

特記事項なし